

## 自治体が成熟している移送サービスと出会って

デンマーク高齢者福祉の旅  
東京都日野市：中澤 洋

### ★寝たきり老人のいないデンマークへの旅

日野市高幡には介護施設として特別養護老人ホーム「浅川苑」があり、当社は福祉専用バスの運行させていただいておりました。

日頃から高齢者の移送に関して外国ではどのようにされているか興味をもっていたとき、ご担当の鍋田さんから「寝たきり老人のいないデンマーク高齢者福祉視察の旅」にご一緒しませんかと誘われました。

### ★高齢者三原則との出会い

早速に行くことを決心した私は、事前のオリエンテーションの中で二つのテーマをもちました。一つは高齢者の移送のこと。もう一つは緊急時通報の仕方を学ぶことでした。

数か所の高齢者施設を訪問しているうちに、施設のどの責任者からも高齢者の三原則というお話を聞くことができました。

- ① 「自己決定の尊重」、高齢者はどこでどのように生活されてもよいという権利があります。例えば自宅生活を希望された場合、行政はホームヘルパーや訪問看護婦を無料で派遣し、在宅ケアを保障する義務を負うことになっているそうです。
- ② 「継続性の重視」、住み慣れた環境で生活が継続されることであり、施設などは町なかの身近な所にあることを保障されています。ロスキレ市でも、ほとんどの施設が市内の歩いて行ける距離にありました。



- ③ 「残存能力の活用」、高齢者の残された能力を活用すること。それを維持させるためにあらゆるサービスを受けることができる権利が保障されているということです。

以上の三原則が施設や職場の隅々まで浸透していて、寝たきりのままの老人がいないことを知って私の疑問は解けました。

そしてこの国が福祉国家と言われるだけのことがあるということがわかりました。

さて、高齢者の移動手段についてまとめてみます。

### ★日本にない光景との出会い

現地ではワゴン車、低床バス、列車を目にして実際に列車に乗ってみました。「切符の買い方」「無人改札」「ドアの開き方」などが日本にない光景でしたが、車椅子で列車への乗車が簡単であり、スペースが十分に確保さ

れていて羨ましい感じさえ受けました。

一方、ベンツのワゴン車を見ますと車幅が広くパワーゲートを外に出しています。使用時にはドライバーが車椅子と一緒にそのままアップダウンするので高齢者には安全とと思いました。

さらにフォードのワゴン車を見ますと、助手席のシートを外して車椅子を3台ほど乗せられるように配慮されています。また、黄色い低床バスは老人の乗降に配慮されていることがとても良いと思いました。

### ★配食サービスを拝見

続いて配食サービスはどのように行われているか興味がありましたので調べてところ、デンマークにおける福祉施策は、国、行政機構、地方自治体の3段階でそれぞれの役割分担が行われているという。ロスキレ市内の施設を訪問したとき配食サービスを拝見して、これは自治体が成熟しているあらわれと思いました。

### ★緊急時はどのような対応

高齢者が安心して暮らせると言いますが緊急時はどのような対応かを観察してみました。一つは「ボタンを押す方法」と「ひもを引く方法」の2通りがあります。しくみとしては、老人宅からヘルパーさんのところへ連絡が入り、消防、警察へ連絡するということでした。

### ★親しい仲間ができた

私としては2回のデンマーク視察の旅でしたが、今までにないいろいろなことを学ぶことができました。そして親しい仲間ができる機会を与えていただきましたコーディネータ、特に沢渡夏代 Brandt さん、中能孝則さん、そして参加された皆様にまずもって感謝いたします。

### ★タクシーが直行し安否確認

当社の30周年事業とからませでの緊急コールシステムの出発式を行いました。デンマークで拝見した規模とはいきませんが、URの団地1階に住む高齢者との契約により通報いただきますとすぐにタクシーが直行し安否確認をいたします。今後も拡大策を検討しています。

### ★常に地域に貢献することをモットーに

その後、介護保険の開始に伴い行政の介護予算の流れが変わりディーサービスに対応して運行していた送迎バスが全滅に近い状態になりました。

早速に営業方法を東京都の養護学校、重度障害施設への移送業務に切り替えましたが、後発のため浸透度が低く内部業務として努力しながら若い社員を採用して、まず施設の要望にこたえることから始めて、営業エリアを拡大し今や都内全域になってきました。

常に地域に貢献することをモットーに、デンマークで学んだことが徐々に実っています。

### ★乗継なしで役所、病院へと気軽に直行

その実例として、行政とのタイアップでワゴンタクシーの開発を行いました。名前を「かわせも Go」と言います。日野市内で路線バスが入れない丘陵地帯など、交通の不便地域で、特に高齢者への配慮として、役所、病院などへ移送できるルートを作成して認可を得て送迎バスの運行に携わることができました。利用者の一番のメリットは乗継なしで役所、病院へと気軽に直行できること。また重量のある買物をして坂道のある自宅に帰るとき気軽に乗ることができます。バスの大きさは当初は10人乗りでしたが、今やニーズにこたえて車両を大きくして15人乗

りになっています。

### ★学生さんが快適に通学

これらの実例をさらに展開してスクールバスの支援を行っています。東京都多摩地域内に多くの大学がありますが中心から離れて点在しています。学生さんが経済的に快適に通学するためにスクールバスの運行を推奨してご採用を得ています。学校側の知名度、便利度などの向上にむすびつき、大学によっては学生の遠征試合などにバスの利用に役立っています。

### ★地域活性化へ協力

このように当社は地域に密着した交通サービスを行っています。地域貢献にも積極的取り組んでいます。

地域とのかかわりをいかに広げるか、いかに喜んでいただけるか。当社の発展は地域の発展と結びつけて事業を進めています。

およそ 20 年前に地域とのかかわりのなかから福祉タクシー、福祉バスのニーズを引き出した実績もあります。

地域はもちろん公共関係とのかかわりも怠らず警察、消防、税務関係団体への参加、日野市商工会、観光協会への加入、地域活性化への協力を続けています。

### ★地元自治会の融和の向上

また併合事業として稽古場としては日本一広い至誠館道場をもっています。主に少年少女剣士を集めて礼節、おもいやりの精神を身に付けていただく稽古に励んでいます。

これは日野市内の青少年育成事業として定着しています。さらにこの広さを利用して体操教室、伝統ある天然理心流の稽古、日本刀道連盟の試合会場などにも開放しております。また地域の災害避難拠点、夏には自治会の盆踊り大会、カラオケ大会会場に開放し

て地元自治会の融和の向上にお役に立てればと思っています。

### ★福祉も交通行政も歴史と人間性を感じた

以上の通り当社は移送事業を専門に行っていますが、今後とも地域の課題に対応した交通サービスを追求していくには地域の方々との交流のなかで課題を見つけて、福祉社会への貢献策として事業化していきたいと考えています。

デンマークロスキレ市の視察の旅に参加して福祉も交通行政も歴史と人間性を感じたことは大変貴重な体験でした。

